

あとがき

＜編集顧問＞

太田 保世
諏訪 邦夫
広沢弘七郎
堀江 孝至
村山 正博

＜編集委員＞

相澤 久道
石坂 彰敏
和泉 徹
小川 聡
永井 良三
三嶋 理晃

＜編集協力委員＞

赤石 誠
赤柴 恒人
北風 政史
近藤 哲理
中沢 潔
(五十音順)

日本循環器学会学術集会が3月15～17日の3日間神戸で開催された。多くの最先端の研究成果が発表され、活発な議論が交わされた。個人的にはプレナリーセッション「本邦における臨床試験の現状と課題」と「Late-Breaking Clinical Trials in Japan」で座長、演者として関わったので、そこから受けた印象について記したい。

この数年、我が国でも循環器学会が中心となって種々の診療ガイドラインが作成され公表されてきたが、その過程で我が国独自のエビデンスの必要性が声高に叫ばれて来た。そのなかで多くの臨床研究が実施され、その成果が相次いで公表されている。臨床試験は大きく二つに分類される。登録調査研究(いわゆる cohort 研究)とランダム化介入試験である。いずれも車の両輪のごときもので診療上のエビデンスとして重要であるが、これを効率的に遂行する際の最大の課題がファンドとインフラ整備、さらには実施医師へのインセンティブをどう高めるかである。今回の発表からは、我が国での臨床試験が黎明期から成熟期に移行して来たことを強く感じさせてくれた。

3月15日の午後には「Late-Breaking Clinical Trials in Japan」でJ-RHYTHM 試験結果が初公開された。心房細動の薬物療法に関する医師主導型の多施設共同無作為化比較試験で、不整脈関連では我が国初の大規模前向き臨床試験としてその結果が大いに注目されていた。会場は開始30分前から満席で部屋からあふれるほどの立ち見で、会場からあふれた人のために急遽廊下にモニターが設置されたほどであった。発作性心房細動例でQOL重視の観点から抗不整脈薬による洞調律維持が推奨される結果が示された。この結果自体、我が国の診療現場での抗不整脈薬療法の安全性と有効性を証明した価値は大きい。インフラ整備が必ずしも十分でなく、臨床試験のための組織作りを並行させながら、プロトコル立案から僅か5年未滿で1,065例の登録、データ解析から結果公表ができたことは高く評価されよう。

(小川 聡)

呼吸と循環 (第55巻 第5号)

2007年5月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

(2007年、年ぎめ予約購読料 31,800 円)
(税込み、配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 菊池・山崎)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan.

• 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

【JCLS】(株)日本著作出版権管理システム委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。